

「吉野川で遊ぶ」 第3回 川島町の善入寺島の竹林と河原

てらしまよしやす 寺嶋吉保：医学部，なかしま まと 信：総合科学部

<行き方>

川島の城址前の坂を西に下った信号を、右の細い道に入り200mほどでと堤防の上から川島潜水橋が見えますので、これを渡り大きな中州である善入寺島に入ります。すぐの交差点を左へ曲がり、広い耕作地を見ながら竹林沿いに300mほど進むと竹林に入る細い道があります。河童が「川にゴミを捨てないで」と訴える看板が目印です。普通車でも竹林を抜け河原の中程までは行けます。

<楽しみ方> 焚き火と竹細工

ここは茂みに流木があり、竹林には朽ちた竹があり薪には困りません。高瀬潜水橋の上流北岸は流木など燃やすものが全くないと対照的です。炭火のバーベキューではなく、是非焚き火の料理に挑戦してください。鋸や鉋を持って行くと竹林で竹を切って、コップや箸、皿の食器を作り、焚き火の周囲で竹筒で御飯を炊いたり、熱燗を楽しめます。もちろん竹トンボなど竹細工の工作も良いでしょう。カヌーイストの野田知佑さんが校長をしている「川の学校」もこの河原で行われていました。



川島城址の展望台からの全景は全長1km以上、最大幅300mのこの河原の広さ



このような夕焼けが映る川面は、東西に流れる大河が少ない日本では見られることが少なく、吉野川の特徴です。



現在の大浜海岸

大東亜戦争末期、飛行機の燃料など石油の代替燃料を生産するため「松やに」から「油」を作ったことを中学2年の時、社会の先生から教わった。翌年5月、日和佐町大浜海岸へ遠足に行った際、たまたま目に付き撮影した時のもの。

最近、訪ねたが「松喰い虫」に侵されたのか当時の松、数十本は既になく、衣を替えた背景の山だけが黙ってこちらを見ていた。



松根油（松やに）採取跡

徳島県日和佐町大浜海岸 昭和39年5月26日(1964年)撮影

(参考：YAHOOで「松根油」を検索すると全国の各種資料有り)

投稿 一枚の写真⑱

総務部・企画広報室・専門員

石田 義夫